

平成25年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	子ども体験活動事業						担当部	教育委員会事務局							
	会計区分	一般会計			事業類型	一般		担当課	生涯学習課							
	事業期間	平成13年度			～	平成30年度以降		担当係	青少年育成係							
	総合計画 分野別計画	主目的	4 教育文化		17 生涯学習		3 健全な青少年を地域で育てる									
		副目的														
	予算区分	款	10		項	5		目	4		大	4		中	3	
	根拠法令・個別計画	第3次小牧市生涯学習推進計画														
	目的 (対象をどのような状態にするのか)	子どもたちが体験活動を通じて、子ども同士や大人との交流により社会性を育む。														
	内容 (手段)	<p>◆24年度実施内容</p> <p>○こども自然体験活動事業</p> <p>・地域の方の参画により運営委員会を設置し、企画運営により事業を実施した。 自然体験活動(じゃがいもづくり、もち米づくり、魚とり、さつまいも掘り、 児の森里山体験、親子自然体験講座、中高生サークル冬祭りイベント)</p> <p>○学校外活動運営事業</p> <p>・子どもが参加するイベント・プログラムに、ポイントラリー制度を導入し、30ポイント以上の児童生徒にピンバッジを贈呈した。 ・ジュニアセミナーとして各種体験講座25講座展開し、その活動の成果発表を「こまなびフェスティバル」において実施した。</p> <p>※各事業の事務局を生涯学習課が担い、職員は、市民と協働で事業に参加・運営した。</p> <p>◆24年度直接経費の内訳</p> <p>こども自然体験活動事業委託料 4,054,737円 学校外活動運営事業委託料 2,546,320円</p> <p>◆25年度直接経費の内訳</p> <p>こども自然体験活動事業委託料 4,307,000円 学校外活動運営事業委託料 3,000,000円</p>														
	受益者負担	有		参加者負担金(保険料、材料費 150円～6,200円講座によって異なる) 1,066,910円												

		単位	H22決算額	H23決算額	H24決算額	H25予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	7,558	5,729	6,601	7,307	
		正職員	従事者数	人	0.50	0.50	0.50	0.50
			人件費	千円	2,665	2,665	2,665	2,665
		その他職員	従事者数	人	2.00	1.00	1.00	1.00
			人件費	千円	2,826	1,520	0	0
	費用合計		千円	13,049	9,914	9,266	9,972	
対前年比		%		75.9	93.4	107.6		
財源	一般財源	千円	12,154	9,105	8,199	9,212		
	国・県支出金	千円	0	0	0	0		
	その他財源	千円	895	809	1,067	760		

業	活動指標名	単位		H22	H23	H24	H25
	績	自然体験事業	回	目標	7	6	7
実績				6	7	7	
	ジュニアセミナー	講座	目標	19	18	25	25
			実績	18	23	25	
			目標				
			実績				
業	成果指標名	単位		H22	H23	H24	H25
	自然体験活動参加者数(約)	人	目標	—	—	—	—
実績			1,700	2,000	2,000		
ジュニアセミナー受講者数	人	目標	324	324	342	470	
		実績	350	453	484		

事業の自己評価	平成24年度の実施結果	事業の達成状況	両事業共に、市民、講師との協働により、円滑な運営を行うことが出来、目標を達成した。				
		事業実施における課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ジュニアセミナーは定員制であるため、希望の講座を全ての児童が受講できるわけではない。第1希望でないなど、一部定員割れとなった講座もあった。 ・自然体験活動は、気候条件等により、農作物の収穫量が変動する。それも含めての自然体験なのであるが、保護者の一部からは不満も聞かれる。 				
		事業を縮小・廃止したときの影響	子どもの成長過程に必要な様々な体験活動の機会が無くなり、子どもの健やかな成長を疎外する。				
	平成25年度の改善内容	25年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	<p>兒の森を自然体験学習の場として、草刈等園路周辺の環境整備を市民ボランティアグループへ協働事業として委託することで、人材発掘、養成から、ボランティアの活動支援までの学びの循環をより充実し、実施する。</p>				
平成26年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)				
	判定理由	様々な体験の機会を通して、子どもの豊かな情操や、親以外の大人との交流を通しての社会性を育む機会の提供は、子どもの成長に必要であると考え、現状維持とした。					
	26年度以降の改善案	わくわく魚とりについては、魚の確保が業者でも困難になっているため、代替案等の検討が必要になる可能性がある。					

二次評価	方向性の判定	判定理由
	維持	一次評価のとおり。